

日 時	2017年3月8日 9:00-13:00
場 所	清華大学(北京市)
テーマ	学風 ボランティア活動 イノベーション・起業 日中の将来の展望
参加者	日本青年18名、中国青年6名
スケジュール	9:00-11:50 清華大学学生との交流、ディスカッション、キャンパス散策 11:50-13:00 昼食

## 成 果

### テーマ：学風

#### 中国の現状

- ・卒業までに160単位必要である。
- ・全寮制である。
- ・大学の敷地が広いので、キャンパス内の移動手段として自転車が必要である。
- ・よりよい職業に就くために、ほとんどの人が大学院への進学を志望する。
- ・午前8時に授業が始まり、午前の授業は11時35分に終わる。その後、昼食と昼寝の時間で合わせて2時間の休憩時間がある。
- ・午後4時から5時までは皆スポーツをする。これは体育の成績に反映され、運動したかどうかは専用のアプリで管理されている。
- ・清華大学の学生の平均的な一日の流れは朝7時に起床し、深夜1時に就寝するという統計がある。
- ・学内には250ものクラブがある。
- ・国際交流のクラブなど、海外にある他大学と協力してコミュニケーションをとっているクラブもある。

#### 日本の現状

- ・卒業までに124単位必要である。
- ・寮を設備している大学も多いが必ずしも全寮生ではなく、自宅から通学したり、一人暮らしをしたりする者もある。
- ・敷地内は基本的には徒歩で移動する。
- ・午前9時に授業が始まり、お昼休憩は昼食も含め約1時間である。

### テーマ：ボランティア活動

#### 中国の例

- ・山間部に住む貧しい子に手紙を書く。
- ・寮の各部屋がきれいかどうか見てまわる衛生検査を毎週木曜日に行う。
- ・自分の髪の毛を切ってウィッグを作り、病気などで髪が生えなくなった人に贈る。

#### 日本の例

- ・オープンキャンパスなどのときに、キャンパスツアーの開催に協力する。
- ・障がい者のために、授業のノートテイクを行う。
- ・盲導犬になるための犬の飼育を大学内で受け入れる。

## テーマ：イノベーション・企業

### 中国の現状

- ・中国では国を挙げて起業を支援しているが、必ずしも全ての学生が起業を身近に感じるわけではない。
- ・芸術系の学生などは、お金目当てより、自分の存在感を示したい思いから起業している。
- ・五一（wuyi）というアプリを開発して、フィリピン人とつながり英語を手軽に学ぶ機会を提供した学生もいる。
- ・レストランの料理を割引価格でオーダーして、すぐに宅配されるというアプリを開発した。
- ・大学で科学技術コンテストが開催され、競争する環境がある。
- ・ユースリーダーを育てるプログラムや、外国人をサポートして中国のことを知ってもらう活動がある。
- ・GPSとスマートフォンを使って、自転車を自由にシェアできる仕組みを作り、事業化した。

### 日本の現状

- ・起業を考える学生は多くない。理由として将来の不安定、資金不足等が挙げられる。

## テーマ：日中の将来の展望

- ・日本も中国も相手国への理解が必要であり、偏見を無くせば互いの良いところが見つかる。
- ・ドラマやアニメ、映画等のメディアを通して互いの目を理解することで、将来は明るくなるのではないかと考える。
- ・国家間で違いがあるのは当たり前であり、その違いが存在することが悪いわけではない。
- ・中国を多様な視点から見ていくべきであり、小さいところからの交流が大事である。

### まとめ

青年が身近に感じるテーマでディスカッションをすることで、国による異なった点、似ている点に気付くことができたと感じる。特に、最後の青年の視点から両国関係を展望する話では、お互いの学生が明るい姿勢で議論を進めることができ、有意義な意見交換であった。少人数だったこともあり、自由闊達なディスカッションになった。

日 時	2017年3月13日 13:55-18:00
場 所	景德鎮陶磁大学（景德鎮市）
テーマ	ボランティア活動 伝統文化の受け継ぎと交流 創造力の育成と個人創業
参加者	日本青年18名、中国青年18名
スケジュール	13:55-15:50 研究センター視察 15:50-16:45 歓迎式及び景德鎮市に関する講義 17:00-18:00 景德鎮陶磁大学の学生との交流、ディスカッション

## 成 果

### テーマ：ボランティア活動

#### 中国の現状

- ・ ボランティアをやりたいと思う人の数はまだ多くない。
- ・ 昔は国民の収入がほとんど同じだったため、ボランティアで他の人を助けることを考える必要がなかった。2010年頃からの経済発展に伴った格差によりボランティア活動が活発になった。
- ・ 中国にとってのボランティアは、お金のある人がお金のない人を助けるというイメージである。お金のある人は資金面で援助し、お金のない学生は精神面で援助する。例えば、学生の場合は、道路の清掃、ペットボトルを収集してリサイクルするなどのボランティア活動を行う。また、教育支援のボランティアも行われている。
- ・ ボランティアをすることを通じて何を学んだかが大切である。

#### 日本の現状

- ・ 1995年の阪神淡路大震災がきっかけで、ボランティア活動が広がった。
- ・ 日本にとってのボランティアは、困っている人を自分の力で助けるという側面が強い。
- ・ ボランティア活動として、ベルマークの収集、エコキャップ運動などが挙げられる。また、教育支援のボランティアも行われている。

#### まとめ

日中両国のボランティアに対する意識に違いはあっても、ボランティアの重要性は互いに理解でき、有意義なディスカッションとなった。

### テーマ：伝統文化の受け継ぎと交流

#### 中国の現状

##### <祝日>

- ・ 中国では、端午の節句には「ちまき」を食べ、春節には中国で旅行をしている人も正月は必ず実家に帰る。

##### <食事のマナー>

- ・ 中国では人間関係に序列があるため、お父さんがご飯を食べるまで子供は食べない。これは、親孝行の考え方に繋がっている。
- ・ 中国人は、昔から農耕に従事していたため、ご飯を残してはいけない。「年年有餘」という成語にも表れている。
- ・ 基本的には利き手を問わず、右手で食事をする。また、お碗を叩くという行為も禁止である。

##### <詩>

- ・ 中国の文化では、文学が中核的な存在であり、小学校から文学を学んでいる。
- ・ 祖先の文学作品は現在にも受け継がれていて、親から子に教えることも当たり前である。
- ・ 詩歌の大会が詩番組で流行っているため、詩を暗記する習慣が現在にも残っている。また、300以上の詩を詠めば暗記しなくてよいと言われるほど、詩を詠む人は素質のある人だと思われる。

#### <陶磁器>

- ・絵描きと陶磁器はつながっているので、素敵な絵を描く人は文化人といわれる。なぜなら、自分の思いを絵に表現して、行動しているからである。

#### <伝統文化の継承>

- ・文化を受け継ぐには、自然を保護する必要がある。自然を尊重して守り、昔の知恵を受け継ぎ、詩の美しさを後世に残していくことが大切だ。
- ・小さい時から伝統文化を取り入れた教育を行っている。

#### 日本の現状

##### <祝日>

- ・端午の節句には、こいのぼりやかぶとを飾ったり、ちまきを食べたりする。中国の春節に当たるのは、1月1日で、家族や親戚で祝う人が多い。

##### <食事のマナー>

- ・「いただきます」を言い、食事に携わってくれた方々と食材に感謝の気持ちを表す。
- ・家族がそろっていなくても、ご飯を食べる。

##### <詩>

- ・詩の出だしを覚えるところから始まり、興味が深まれば各自で学んだりする。
- ・「日本語で遊ぼう」のように詩の美しさより、言葉自体を学ぶ傾向にある。

##### <伝統文化の継承>

- ・伝統文化の継承は大切だとは思いますが、若者への興味・関心が薄れてきており、受け継ぎが難しい。

#### まとめ

日本と中国の伝統文化において、春節や端午の節句の話題から伝統文化の継承まで学ぶことができた。また、中国では伝統文化の継承をとっても大切に考えられていることを感じた。

### テーマ：創造力の育成と個人創業

#### 中国の現状

- ・学生で起業することは、経験を得ることが何より重要で、個人の生活費をまかなえれば良いだけなので、それほど難しいことは考えていない。特に、陶磁器・デザインなどは自分自身の技術を磨くことが成長につながるので、経験を得ることが大事である。

#### 日本の現状

- ・日本の若者は不景気の時代しか体験していないため、安定を求める傾向があり、起業する人は非常に少ない。
- ・起業するためには準備金が必要だが、起業家への支援が不十分でリスクが大きい。

#### まとめ

中国では起業して経験を積むことは成功のための過程と考えており、起業に積極的な人が多い。一方、日本では長く続く不景気により慎重な人が多く、起業する人は少ない。

日 時	2017年3月17日 14:10-16:30
場 所	中山大学(広州市)
テーマ	経済格差 少子高齢化 環境
参加者	日本青年18名、中国青年15名
スケジュール	14:10-15:30 中山大学キャンパス散策 15:30-16:30 中山大学日本語学科学生とのディスカッション及び交流会

## 成 果

### テーマ：経済格差

#### 中国の現状

- ・高所得者と低所得者の格差が激しい。
- ・戸籍によって受けられる支援に差がある。都市戸籍と農民戸籍によって格差ができていた。
- ・農民戸籍の場合、都市へ出稼ぎに行くと支援が受けられない。現在は30の省で廃止されているが、今も残っている。
- ・お金がある家庭の子供は良い大学に行く。農村地域は貧しいため、都市部の大学に農村地域の学生が減少している。
- ・奨学金があっても、限られた学生しか受けることができない。
- ・医療費に莫大なお金を必要とする。薬は40～50%の保険負担があるが、検査費は自己負担。

#### 日本の現状

- ・戸籍による厳しい制限は設けられていない。
- ・お金がある家庭の子供は塾に行きやすく、結果として良い学校へ進学する割合が高い。
- ・地方の学生は都市の大学に入学しても、家賃の負担が大きいため、都市の大学へ行く割合が減少している。
- ・全ての日本人が国民健康保険に加入しているため、かかる医療費の3割負担で受けられる。

#### まとめ

英語と中国語を用いて、都市部と農村部での格差の違いに焦点が当てディスカッションをした。また、教育や医療の視点などからの経済格差について意見交換をし、日本と中国の違いを知ることができた。

### テーマ：少子高齢化

#### 中国の現状

- ・一人っ子政策で若年人口が減り、さらに医療水準の向上と平均寿命の伸びで少子高齢化が問題になってきており、二人っ子政策が奨励されるようになった。
- ・女性の高学歴化により、社会進出を望み子供を産みたくない人が増えてきている。
- ・二人っ子政策の結果、30～40歳の人はもう一人子供を欲しいと思う一方、90年代生まれ以降の若者は、養育費の負担から、二人目を欲しがらない傾向がある。

#### 日本の現状

- ・少子高齢化は10年程前からより議論されるようになってきたが、介護士の給料が低いこと等が足かせとなり、介護士の人手が足りていない。
- ・介護士を増やすために主にインドネシアやフィリピンといった国から移民を受け入れているが、試験が日本語で書かれていて難しく、中々根付いていない。
- ・女性の社会進出で少子高齢化に拍車がかかっている。

#### まとめ

中国では一人っ子政策による若年人口減少のため、二人っ子政策が奨励されるようになったが、二人目を欲しいと思うかどうかは年齢によって異なることが分かった。一方、日本では高齢者社会を支えるための介護士不足が大きく問題になっていて、移民や給料の底上げが課題として挙げられている。

## テーマ：環境

### 中国の現状

- ・工場が多いため大気汚染がひどいが、具体的な政策が出てない。
- ・環境に取り組む法律はあるが、効果がなく、罰則もない。
- ・先進国が中国に工場を建てていることも公害が加速する要因となっている。
- ・中国人は1度車を持つとずっと車を利用し続けるため、排気ガスが減らない。
- ・人口が多く、環境に配慮したエコカーにするにも時間がかかる。
- ・健康被害が出ているが訴訟がない。
- ・砂漠化やごみ問題もある。
- ・環境問題に対する一人一人の問題意識が低い。
- ・北京は大気汚染の問題があり、広東省では汚染水の問題がある。
- ・広東省では予算の40%を環境問題対策に当てており、年一回、市長が川で泳ぐことで安全をアピールしている。
- ・環境汚染が健康に与える問題はあまりフォーカスされない。
- ・広州の人は川の水を飲んでいる。
- ・2～3年前から駅や公園で飲める水を設置した。
- ・水不足と汚染の問題がある。
- ・貧しいところでは水道設備が整っていない。
- ・水性植物が太陽の光を遮り、魚が死んでいる。

### 日本の現状

- ・日本も1960～1970年代にかけて公害問題があった。
- ・日本の都市では、地下鉄やバスなどの公共交通機関を利用し、田舎では、車を多く利用する。
- ・経済成長期には木を多く伐採しすぎたため、木を植え始めた。経済成長期後半には木が大きくなったが、その頃には木材の需要が減り、木を手入れする人がいなくなり、林業が衰退した。
- ・昔は様々な公害問題があり、今でも後遺症で苦しむ人がいる等、健康被害の問題がある。
- ・地震などの緊急時に使うパイプやタンクの車がある。
- ・防災対策として水を備蓄している。

### まとめ

かつて日本でもあった環境問題が、現在の中国でも同じように現れていると感じた。また、その国特有の問題があり、大変興味深かった。

